

小児科入院時の児の負担軽減と業務改善を目指して

奥山笑美, 工藤仁美, 信岡朱美, 石垣幸枝, 加藤志津子, 幸田久美子

Key Words : 小児, 入院, 負担軽減, 学務改善

はじめに

小児科入院患児のほぼ全例に24時間持続点滴が行われる。外来より点滴が施行されている時、点滴方法が異なることにより、再固定が余儀なくされていた。

入院患児の負担を軽減し、入院時の業務の効率化を図るため、医師、外来スタッフ、他物品センタースタッフと協力して、再固定を無くす業務改善に取り組み、入院患児の負担を減らし、コストダウンにもつながったので報告する。

目的

点滴再固定に伴う患児の苦痛の軽減を図り、業務の効率化・衛生材料の削減をする。

用語の定義

TQM : Total Quality Management

小集団活動を通じ他部門と目的を共有し連携をはかり業務改善を行う。

研究方法

1. 研究期間 平成20年6月1日から平成21年1月31日
2. 調査期間 平成20年7月1日から平成20年7月31日
3. 研究対象 小児科入院患児
4. 研究方法 TQM活動を通じて、衛生材料費・所要時間を調査し、その結果を他部門・他職種と共有し、共同で業務改善を行った。

結果

1. 外来での点滴施行者は76名だった。うち小児科入院患児は12名、点滴の再固定率は17%だった。
 - ・外来スタッフ、物品センター、医師などの全面協力が得られ、持続点滴可能な強度の固定方法が外来、病棟間で統一された。
 - ・平成20年10月以降、統一された固定法を外来でも実施し、11月以降は全く再固定がなくなった。
2. 衛生材料費の単価調査結果
1回の点滴固定に要する費用 改善前1人分70円 改善後1人分24.5円
1回44.5円の減額となった。

考察

業務改善に際し病棟単位、看護スタッフの枠で行うのではなく、他部門との連携が必須であることが明らかとなった。現状を数値で表現し病棟全体で可視化したことが成功の要因である。動機づけとして、看護の質の改善、向上に寄与し、かつコストの削減につながる情報の提供と、わかりやすい具体策の提案が、部門を超えたスタッフのコミュニケーションを円滑にし、全面協力を得ることにつながった。

結論

1. 点滴の固定方法を外来と統一することで、再固定がなくなった。
2. 再固定の時間が不要となり、業務の効率化が図られ、患者、家族へのケアの充実に繋がった。
3. 固定方法を統一するなかで、材料の変更、無

駄なコストの削減ができた。

4. TQMのツールを使用することで、スムーズに業務改善が浸透、継続した。

謝辞

本研究にご協力いただいた皆様に感謝いたします。

文 献

藤本幸三：業務改善の基本, ナースマネジャー, 10(11),

53